第 14 講　コンピテンシーを育むデジタルアーカイブの構築と活用

【学習到達目標】

（１）音楽科におけるデジタルアーカイブの利点を説明できる。

（２）音楽科デジタルアーカイブを構想できる。

1 コンピテンシーを育むデジタルアーカイブの構築

音楽科の授業をデザインしていくうえで、目の前の子供に必要な力をつけるための教材（楽曲）は何が適していて、子供がその力をつけるために、どのような曲と出会い、どんなコンセプトで何を大事にしていきたいか、コンピテンシーベースの改革をきっかけに、音楽では子供が何を学ぶのか、という視点が重要とされている。

かなり早い段階からコンピテンシー主義を重視する傾向が強まってきた英国では、専門家による報告書（Department for Education,U.K.,2011）において、コンピテンシーとコンテンツは二項対立的でない、と指摘し、何かを学習することなしに、独自に「学び方」を概念化することは不可能である、と述べている。白井(2025)はこの分析として、いくらコンピテンシーの育成が大事だとしても、教師が、「批判的に考える力をつけましょう」「創造性を発揮しましょう」と呼びかけたところで、子供たちは何をすればよいか分からず、自分でコンテンツを探すだけで、授業時間が終わってしまうかもしれない、やはり学習のコンテンツは必要だ、と結論づけている。

これまで音楽科教師は、題材授業のための楽譜、参考書籍、音源、演奏映像などを、指導者個人で収集することが多かった。同じものを異動先の学校が備えていなかったり、独自で開発した題材に適した教材が見当たらなかったりして、教材開発には事前の労力と費用・時間を要するためである。

デジタルアーカイブは、そうした授業者が集めた資料を、デジタル技術を駆使した記録でコンテンツとして保管しておくことを指す。コンピテンシーを育む授業のために必要な、学習効果の高い資料を厳選したデジタルアーカイブを構築しておくことで、授業の度に一から準備せず、また、共有すれば誰でもどこからでも使えるデータとして、加工や編集が自由に行うことができるようになる。資料に加えて、実際の授業を動画で保存することで、組織固有のノウハウ、達人の技法のような、これまで「経験や勘」などと言われて記録が残らず、その先生だけができた技術・ノウハウなどの暗

黙知までも、動画などのデータで記録・整理することにより、検証し形式知化して、次世代に継承していく可能性も高まる。

2 デジタルコンテンツのための収集　～教材選択の視点（内容の取扱い）から

音楽科の学習指導は、音楽作品の表現や鑑賞の活動を通して行われる。そのため、歌唱教材、器楽教材、鑑賞教材とは、楽曲名が示されることが多い。学習指導要領では、教材の選択については、歌唱共通教材と教材選択の観点のみが示されている。これは、各学校で創意工夫ある学習展開が実施できるよう、期待されるためである。

授業とは、子供が「材」と出会い、それと対話・格闘する過程を組織化することを通して、素朴な認識や生活をより文化的に洗練されたものへと組み替えていく過程である。ゆえに、授業を創ったり検討したりする際には、子供、教材、指導法の 3 つの視点で考えていくことになり、子供主体の学びは、子供と教材、この 2 つへの理解が深まることなくして、長期的に見て教師の成長は望めない。教師主語で教材理解、教科内容理解を深めつつ、子供主語で授業における学びと成長をイメージすることが肝要であり、何より、授業に先立つ教材研究や授業過程で、教師自身が一人の学び手として「材」と向き合って学んでいてこそ、子供と学び、子供を育て、育ちゆく子供の姿から学ぶことができる、と指摘する（石井 2024)。

子供主体の学びをデザインする際でも、教師が教材の本質を探っていくことには変わらない。これまでの自身の音楽経験を生かしながら教材を選択し、十分に教材研究を行うことが大切である。教材研究の視点としては、①目標や内容に適合した教育的価値があるかどうか、②児童の興味・関心をもたせることができるものであるか、児童の発達段階にそったものであるかどうか、③楽曲の芸術的価値、文化的価値があるものかどうか、などの点があげられる。また、音楽の特質上、楽曲は演奏表現をされることによって初めて教材としての価値をもつことから、編曲の仕方や演奏の違いなどについても、十分配慮することが必要である。さらに、地域にある伝統的な音楽や芸能の中から、教材として活用できるものの開発に努めていくことも重要である。

以下は、小学校学習指導要領音楽科の教材選択の視点（内容の取扱い）である。表 1 ～ 3 は、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）コード表　Ver 1.2 から抜粋した。適した楽曲を選択し、コンテンツを構成してほしい。表 1 ～ 3 のセル 2 列目の番号を、メタデータ（対象となるデータに関するデータ）として掲載することをお勧めする。これら教材を選択するのは授業者であり、授業者は、日頃から、適切な楽曲についての情報収集を十分に行っておき、デジタルコンテンツの収集に努めたい。

音楽	2645	3　内容の取扱い
音楽	2646	(1) 歌唱教材は次に示すものを取り扱う。
音楽	2647	ア　主となる歌唱教材については，各学年ともイの共通教材を含めて，斉唱及び輪唱で歌う曲
音楽	2648	イ　共通教材
音楽	2649	〔第１学年〕
音楽	2650	「うみ」　（文部省唱歌）林柳波《はやしりゅうは》作詞　井上武士《いのうえたけし》作曲
音楽	2651	「かたつむり」　（文部省唱歌）
音楽	2652	「日のまる」　（文部省唱歌）高野辰之《たかのたつゆき》作詞　岡野貞一《おかもとていいち》作曲
音楽	2653	「ひらいたひらいた」　（わらべうた）
音楽	2654	〔第２学年〕
音楽	2655	「かくれんぼ」　（文部省唱歌）林柳波《はやしりゅうは》作詞　下総皖一《しもふさかんいち》作曲
音楽	2656	「春がきた」　（文部省唱歌）高野辰之《たかのたつゆき》作詞　岡野貞一《おかもとていいち》作曲
音楽	2657	「虫のこえ」　（文部省唱歌）
音楽	2658	「夕やけこやけ」　中村雨紅《なかむらうこう》作詞　草川信《くさかわしん》作曲
音楽	2659	(2) 主となる器楽教材については，既習の歌唱教材を含め，主旋律に簡単なリズム伴奏や低声部などを加えた曲を取り扱う。
音楽	2660	(3) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。
音楽	2661	ア　我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた，行進曲や踊りの音楽など体を動かすことの快さを感じ取りやすい音楽，日常の生活に関連して情景を思い浮かべやすい音楽など，いろいろな種類の曲
音楽	2662	イ　音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく，親しみやすい曲
音楽	2663	ウ　楽器の音色や人の声の特徴を捉えやすく親しみやすい，いろいろな演奏形態による曲

表１　第１学年及び第２学年の内容の取扱い

音楽	2705	3　内容の取扱い
音楽	2706	(1) 歌唱教材は次に示すものを取り扱う。
音楽	2707	ア　主となる歌唱教材については，各学年ともイの共通教材を含めて，斉唱及び簡単な合唱で歌う曲
音楽	2708	イ　共通教材
音楽	2709	〔第３学年〕
音楽	2710	「うさぎ」　（日本古謡）
音楽	2711	「茶つみ」　（文部省唱歌）
音楽	2712	「春の小川」　（文部省唱歌）高野辰之《たかのたつゆき》作詞　岡野貞一《おかもとていいち》作曲
音楽	2713	「ふじ山」　（文部省唱歌）巌谷小波《いわやさざなみ》作詞
音楽	2714	〔第４学年〕
音楽	2715	「さくらさくら」　（日本古謡）
音楽	2716	「とんび」　葛原《くずはら》しげる作詞　梁田貞《やなだただし》作曲
音楽	2717	「まきばの朝」　（文部省唱歌）船橋栄吉《ふなばしえいきち》作曲
音楽	2718	「もみじ」　（文部省唱歌）高野辰之《たかのたつゆき》作詞　岡野貞一《おかもとていいち》作曲
音楽	2719	(2) 主となる器楽教材については，既習の歌唱教材を含め，簡単な重奏や合奏などの曲を取り扱う。
音楽	2720	(3) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。
音楽	2721	ア　和楽器の音楽を含めた我が国の音楽，郷土の音楽，諸外国に伝わる民謡など生活との関わりを捉えやすい音楽，劇の音楽，人々に長く親しまれている音楽など，いろいろな種類の曲
音楽	2722	イ　音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく，聴く楽しさを得やすい曲
音楽	2723	ウ　楽器や人の声による演奏表現の違いを聴き取りやすい，独奏，重奏，独唱，重唱を含めたいろいろな演奏形態による曲

表２　第３学年及び第４学年の内容の取扱い

学習指導要領コードのコード表（全体版）について(2020)文部科学省

音楽	2765	3　内容の取扱い
音楽	2766	(1) 歌唱教材は次に示すものを取り扱う。
音楽	2767	ア　主となる歌唱教材については，各学年ともイの共通教材の中の３曲を含めて，斉唱及び合唱で歌う曲
音楽	2768	イ　共通教材
音楽	2769	〔第５学年〕
音楽	2770	「こいのぼり」　（文部省唱歌）
音楽	2771	「子もり歌」　（日本古謡）
音楽	2772	「スキーの歌」　（文部省唱歌）　林柳波《はやしりゅうは》作詞　橋本国彦《はしもとくにひこ》作曲
音楽	2773	「冬げしき」　（文部省唱歌）
音楽	2774	〔第６学年〕
音楽	2775	「越天楽今様《えてんらくいまよう》（歌詞は第２節まで）」（日本古謡）　慈鎮《じちん》和尚作歌
音楽	2776	「おぼろ月夜」　（文部省唱歌）　高野辰之《たかのたつゆき》作詞　岡野貞一《おかもとていいち》作曲
音楽	2777	「ふるさと」　（文部省唱歌）　高野辰之《たかのたつゆき》作詞　岡野貞一《おかもとていいち》作曲
音楽	2778	「われは海の子（歌詞は第３節まで）」（文部省唱歌）
音楽	2779	(2) 主となる器楽教材については，楽器の演奏効果を考慮し，簡単な重奏や合奏などの曲を取り扱う。
音楽	2780	(3) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。
音楽	2781	ア　和楽器の音楽を含めた我が国の音楽や諸外国の音楽など文化との関わりを捉えやすい音楽，人々に長く親しまれている音楽など，いろいろな種類の曲
音楽	2782	イ　音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく，聴く喜びを深めやすい曲
音楽	2783	ウ　楽器の音や人の声が重なり合う響きを味わうことができる，合奏，合唱を含めたいろいろな演奏形態による曲

表３　第５学年及び第６学年の内容の取扱い

3 デジタルアーカイブがつくる新たな学び

web 上に公開されている膨大なデータのデジタルアーカイブは、変革（授業改善や新たな創造）のアイディアにつなげていきたい。ここでは、そのプロセスをモデル化した、ベリンジャー（G.Bellinger 2004）の DIKW モデルをあてはめて、音楽科の学習でデジタルアーカイブがどのように利用されていくのか、その可能性を例示したい。

DIKW モデルとは、情報をデータ（Data）→情報（Information）→知識(Knowledge)→Wisdom（知恵）の４つの階層に分けることで、ナレッジ・マネジメントなどに活用するための、フレームワークである。この視点に沿って、デジタルアーカイブ利活用のアイディアを説明する。

音楽科の学習における資料提示・提供（Data データ）：**D**

デジタルコンテンツのデータ活用は、音楽科の得意とするところである。作曲家、オーケストラ、総合芸術、民俗音楽をはじめ、あらゆる音楽ジャンルを、学習と関連して用いている。

例えば、「文化デジタルライブラリー」は、授業で役立つコンテンツの一つである。伝統芸能の保存及び振興を行う独立行政法人日本芸術文化振興会（国立劇場調査養成部調査資料課）が作成している。

小学校音楽における学習支援コンテンツ（2022）　文部科学省

小学校音楽における学習支援コンテンツ(2022)

日本の舞台芸術教材、公演記録、収蔵資料などが、それぞれのカテゴリーで整理されており、使いやすい。演目は解説（背景、概要、参考）と動画の一部がセットで構成されている。これらは、Google Classroom のようなクラウドに、日頃から音楽科資料箱に題材毎の情報をまとめておきたい。授業の際に、授業用 Classroom にそのデータを添付して活用する。子供の実態に合わせて修正しながら改良を重ねる。子供が課題を提出すると、その積み重ねで、デジタルポートフォリオのように新たなデータが資料となっていく。

文化デジタルライブラリー

創造性を育む ICT を活用した音楽科授業転換への課題解決（Information 情報）：I

例えば、21 世紀型スキルである創造性を育む ICT を活用した音楽科の学習指導の工夫改善をめざす時、ヒントになる学校における ICT 活用の学習場面を、音楽科ではどのように転換するか、新しい価値を生み出す方法を、デジタルアーカイブで課題の解決を図ることができる。

「音楽科学習指導において ICT を活用して生徒の創造性を育む」という課題解決のために、実践事例データを抽出する。数値化できない創造性をどのようにして育むのか、思考を深める学習過程の工夫や生徒の振り返りの有効性などを検証しつつ、自分の考えをまとめ、授業改善につなげていく。

教員の ICT 活用指導力の向上　音楽科　小学校
〇ICT 活用のポイント、〇事例

小学校音楽科の指導における ICT の活用について（2020）文部科学省

子供の学び応援サイト　教師向け詳細版（小学校音楽）(2020)　文部科学省

子供の思考を活性化させたり、創意工夫を促進したりする活用の工夫で、課題の解

GIGA スクール構想のもとでも小学校音楽科の指導について(2021)文部科学省

子供の学び応援サイト　教師向け(2020)文部科学省

決方法が見いだせたら、その成果をクラウドで共有する。有効性が明らかになれば、さらにデジタルアーカイブへ追加したりするなどして、研究としてもさらなる充実を図ることができる。

音楽授業の知的創造（Knowledge 知識）：**K**

教科の学びを深め、教科の学びの本質に迫るため、生徒の思考の流れにあわせ、教材は題材パッケージでコンテンツを構成すると、授業デザインが伝わり、データ提供のみより、はるかに授業で活用しやすい。

ムジクラス　異なる指揮者による演奏聴き比べ　https://mujikurasu.com/ict-

例えば、Google スライドに音源や動画を貼り付けて、Classroom で授業の進度に合わせて提示する。Google Classroom に音楽資料室をつくり、共有をかけて充実させていく。
教育研究情報データベース　国立教育政策研究所

コンテンツは、一度作ったものをそのままにせず、誰でも自由にリメイクし、掲載することができれば、知の増殖型サイクルで、多く先生の手でデジタルアーカイブの幅が広がり、工夫・改善を重ねて常によりよく更新できる。できる限り管理者（教科代表、研究部長、担当者、サーチャー・アナリスト、コーディネータなど）を置くことで、コンテンツの質の維持することを検討する。

クラウドや専用 web ページ作成が可能な状況であれば、図１のようなコンテンツとして題材毎にまとめ、楽譜や音源、動画を共有デジタルアーカイブとして、指導案、プレゼンテーション、振り返り（評価）、課題提出など一つのパッケージにできれば、活用の幅が広がる。さらに、小学校６年間の音楽科年間指導計画やデジタル教科書とセットすれば、計画的な学習指導ができる。

図１　授業改善に役立つコンテンツ事例（「令和５年度発信コンテンツ」佐賀県教育センター）

AI を使った知的創作活動・作曲活動（Wisdom 知・知恵）：**W**

音楽の各ジャンルには、それぞれ音楽的特徴がある。その音楽的特徴で、合理的に作曲できるようになったのが、生成 AI 自動音楽作成ツールである。ジャンル別の音楽の特徴のパターンがデータとしてプラットフォームに収集されており、自分が好きなジャンルを選ぶだけで、そのジャンルの雰囲気をもった音楽が AI で生成され、わずかな時間で何曲もの曲が提示される。作曲の技能や心の動きや感動、気持ちなどの表現したいことやものなどに全く関わらず、作曲できる。人の感性が必要なのは、好みの曲を選ぶ時だけである。ピアノやギターが弾けなくとも、自分好みの曲を自動で作って楽しむ楽しみ方も、また、現代の音楽の楽しみ方であるといえる。子供による異なるプロンプトで、新たなトレンドや創造性を生み出せる可能性がある。音楽づくりは、AI 作曲・映像ツールを選択すれば、ほぼ専門知識や表現技能はいらない。

AI Music Generator　SOUNDRAW
https://soundraw.io/ja/create_music

これまで培ってきた音楽科教育の研究成果を反映させた、課題解決や知的創造に向けたコンテンツが、価値ある豊かな心を育てるデジタルアーカイブとして存在していくよう取り組んでほしい。現在学校は、経験年数が少ない教員が多くを占めている。働き方改革も相まって、授業力向上のための研究に、これまでのように時間をいとわず取り組む時代ではなくなった。これまでの教育の質を維持するためには、今こそ、知の創造としてのデジタルアーカイブが重要で、デジタルアーカイブ子供の音楽のカを伸ばすとともに、先生の指導力向上につながるヒントとなる。

4 カリキュラム･マネジメントにいかす音楽科におけるデジタルアーカイブのナレッジマネジメント（知的創造）

（１）課題によるデジタルアーカイブによる知的処理

カリキュラム・マネジメントに、学校の特色づくりが反映しやすい音楽科の果たす役割は大きい。しかし、音楽科の負担も大きい。学校は人事異動で人の入れ替わりも早く、地域の祭りや学校特色を生かした音楽的行事の成功は、指導者によるところが大きい。そこをデジタルアーカイブで、サポートしたい。

例として、学校行事として実施している音楽発表会（音楽発表や音楽劇）のデジタルアーカイブの構築について説明する。音楽発表会の出し物は、アイディア勝負である。何をテーマにするか、どのように構成していくかなど、教師の手腕が問われる。

音楽の指導が得意な学年ばかりではない。コロナ禍前には行っていた合同演奏会などがなくなり、音楽表現（出し物）の情報収集が難しくなってきた。

図２は、音楽発表会のデジタルアーカイブを構築する PDCA を表している。学校や市全体で、出し物についてのアイディアを蓄えていくことを提案する。

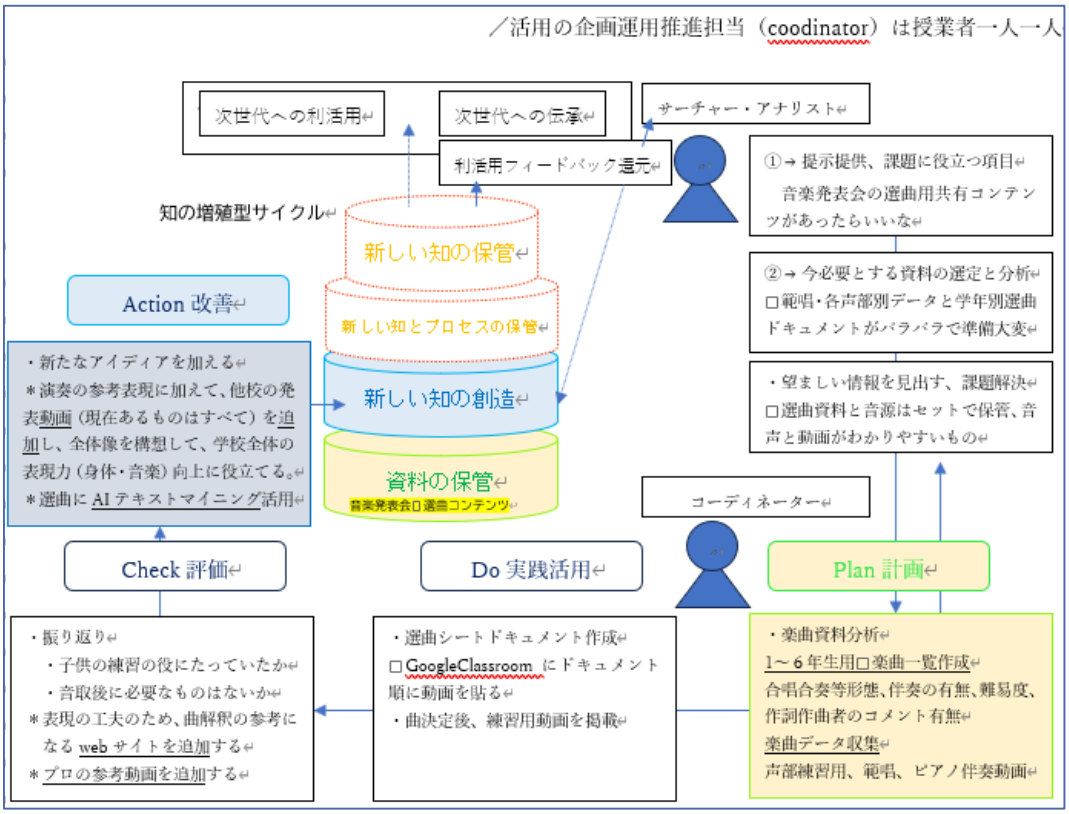

図２　知の増殖型サイクルによるデジタルアーカイブの新しい知の構築（共有コンテンツ作成を例としたプロセスについての説明）

毎年のプログラムや音楽表現の動画を、すぐに活用できるように、しおりを入れたり、カットしたりして、セットで保存する。動画の管理には、非公開の学校 YouTube チャンネルの開設も有効である。資料には、当時の指導者、実際に行ったクラス数、楽譜、資料、指導案（練習計画と配時）などを整理する。

新曲や他校の情報も欲しいならば、区や市単位の研究会で共有していくことも検討したい。

カリキュラム・マネジメントには、教科等横断型の学習も効果がある。国語と音楽は親和性がよく、音楽劇「スイミー」や「ごんぎつね」のように、研究しつくされて多くのデータがある教材もある。また、地域素材を基にした実践も、学校特色として挙げられる。これらの開発は簡単ではないことから、教科横断的学習の例として、各学校に資料を備えておきたい。

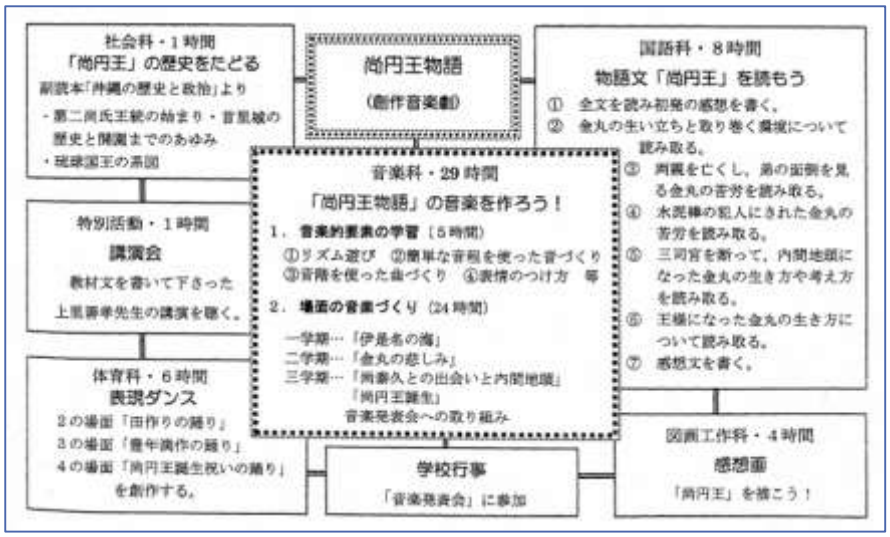

図３　創造性を培い表現力を高める音楽科学習指導（沖縄県立教育センター・2001 研究紀要 12 集）

（２）デジタルアーカイブの処理プロセスのチェックリスト

①課題に関連する項目を見出す

・選曲リストに挙げた曲のデータ web 検索

・データが揃っているかどうか、ない場合の掲載はどうするか

②過去の資料から、現状に望ましい情報を見出す

・今年の学年の子供たちの表現技能や心情にあった関連資料を抽出しリンク

・現在のカリキュラム対応への再構成の必要性

③使いやすい資料を作成

・分析結果を共有できる書き込み、共有可能なデータへの変換

・メタ・データへの対応、教育データの標準化（学習指導要領）への対応

④実践での活用

・実際に活用してみての、使い勝手や不要だった資料等の確認

⑤実践結果の評価と改善、新たな創造

・実践プロセスの（説明）手引作成、児童や保護者からのアンケート収集（資料や効果があったデータ）

⑥改善資料や創造、各項目の処理プロセス保管

・今年の表現動画を追加保管

・学年の児童から次年度の学年児童へのアドバイス

・教材・コンテンツの価値や有用性の吟味

５ 学習データの整理と工夫

音楽科の学習は、題材構成のため、題材名では、必要なデータを検索してもヒットしない場合が多い。そのため、学習データの整理と工夫にあたり、メタ・データには、

教育データ利活用ロードマップ（2022）
デジタル庁・文部科学省　他

教育 DX・/教育データ利活用の現状と展望（2024）
文部科学省

教材として用いた楽曲名（音源の種類、MIDI データ、模範演奏の動画や番組）などを、記載しておくことが重要である。また、学習を深めるための関連資料（曲の背景、作詞・作曲者の思い、比較教材）、学習データ（レポートや音楽作品）の整理のために、学習指導要領のコードを項目として挙げておきたい。学年とめざす資質・能力が明らかになれば、情報の所在が絞られてくる。音楽の種類や指導のねらいに即して、データを選ぶことができるようなメタ・データとなるよう工夫したい。

今後、ポータルサイトとデータ（教材）セットの利活用や、メディアを組み合わせた教育リソース等の開発、MEXCBT へのリンク等、益々の利活用に向けた工夫が期待される。デジタルアーカイブの範囲や規模をあらかじめ想定して開発することが、発展のためのポイントとなる。

図４　デジタルアーカイブに関する各機関の関わり

【参考文献】
１）白井俊(2025)「世界の教育はどこへ向かうか」（中公新書）p166,167
２）石井英真（2024）教育「変革」の時代の羅針盤「教育 DX×個別最適な学び」の光と影　p211、212
３）文部科学省（2020）「教育データの利活用について」
４）後藤忠彦　他(2020)「デジタルアーカイブの利活用基礎」(岐阜女子大学)
５）中教審教育課程部会（2019.10）「これからの社会を生きるすべての子供たちに求められる資質・能力の育成における芸術教育の意義とＩＣＴの活用」
６）文部科学省（2021）「学習指導要領コード」
７）文部科学省（2021）「ＧＩＧＡスクール構想のもとでの小学校音楽科の指導について」

課　題

1　適切な楽曲を挙げなさい。採択している教科書をはじめ、それ以外の教科書の掲載楽曲、子供の身の周りにある音や音楽も参考にして教材選択をすすめ、必要とされる音楽科のデジタルアーカイブのフレームワークを構成しなさい

○歌唱教材（共通教材を含む）

我が国や郷土の音楽に愛着がもてるよう、共通教材のほか、長い間親しまれてきた唱歌、それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうたを取り上げる。

	内容	曲名
低	共通教材を含めて、斉唱及び輪唱で歌う曲	
中	共通教材を含めて、斉唱及び簡単な合唱で歌う曲	
高	共通教材 3 曲を含めて、斉唱及び合唱で歌う曲	

○器楽教材

打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を用いる。

	楽器名	曲名
低	オルガン・鍵盤ハーモニカ	
中	オルガン・鍵盤ハーモニカ	
	リコーダー	
	鍵盤楽器（キーボード、オルガン、ピアノ、アコーディオン等）	
	和楽器（箏）	
高	オルガン・鍵盤ハーモニカ	
	リコーダー	
	鍵盤楽器（オルガン、ピアノ、アコーディオン等）	
	和楽器（箏）	
	電子楽器（電子ドラム、電子オルガン、電子キーボード）	

○創作（音楽づくり）教材

音遊び、即興的な表現をする。必要に応じて、つくった音楽の作品記録をする。拍のないリズム、我が国の音楽に使われている音階や調性にとらわれない音階などを、児童の実態応じて取り上げる。

○鑑賞教材

ア～ウの観点を相互に関連付けて、児童にとって親しみやすく、音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取りやすい曲を選択する。使用する音源にも配慮し、ICT を含め効果的に視聴覚教材なども活用して、演奏表現の豊かさを十分に味わうことができるように留意する。

ア）いろいろな種類の曲

子供がいろいろな種類の音楽に親しみ、発達に応じた適切な教材を選択するための観点（我が国

や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに、他国の音楽文化を尊重する態度を養う）が示されている。

	種類	内容	曲名
低	わらべうた 遊びうた 行進曲 踊りの音楽	・体を動かすことの快さを感じ取りやすい音楽 ・日常の生活に関連して情景を思い浮かべやすい音楽	
中	我が国の音楽 和楽器の音楽 郷土の音楽 諸外国に伝わる民謡	・箏や和太鼓の音楽など和楽器の音楽を含めた我が国の音楽 ・生活とのかかわりをとらえやすい音楽 ・わらべうたや民謡、祭囃子など、子供たちの生活と密着した地域などで親しまれている郷土の音楽 ・劇の音楽 ・人々に長く親しまれている音楽	
高	我が国の音楽 和楽器の音楽 諸外国の音楽	・和楽器の音楽、雅楽、歌舞伎、狂言、文楽の一場面などの我が国の音楽、民謡、祭囃子など、生活している地域などで親しまれている郷土の音楽 ・文化とのかかわりをとらえやすい音楽 ・人々に長く親しまれている音楽	

イ）　音楽を形作っている要素の働きを感じ取りやすく

共通事項と直接かかわることから、指導のねらいにあったイの観点を含み、アやウの観点とのかかわりをもたせやすい曲を選択する。

低	音楽を形作っている要素の働きを感じ取りやすく	親しみやすい曲	
中		聴く楽しさを得やすい曲	
高		聴く喜びを深めやすい曲	

ウ）　いろいろな演奏形態による曲

楽器の音や人の声の特徴など、音楽の特徴や演奏の魅力を味わうことができる教材を選択する。

	種類	内容	曲名
低	いろいろな演奏形態による曲	・一つ一つの楽器の音色や人の声の特徴を捉えやすい音楽 ・楽器の演奏の仕方や歌い方に興味・関心をもつことのできる曲 ・親しみやすい音楽	
中		・楽器の音色や人の声による演奏表現の違いを聴き取りやすい曲 ・管楽器、弦楽器、打楽器などによる独奏曲や重奏曲 ・いろいろな声域や歌い方による独唱曲や重唱曲	
高		・楽器の音色や演奏の仕方の特徴を捉えやすく、アンサンブルの楽しさを味わうことのできる室内楽、楽器の多様な組み合わせから生まれる響きの美しさを感じ取りやすい吹奏楽、協奏曲、管弦楽曲などの合奏曲 ・ソプラノ、アルト、テノール、バスなどの声域による人の声の特徴と歌声の表情を味わいやすい歌曲、超えの組み合わせから生まれる響きの美しさを感じ取りやすい重唱曲や合唱曲	